



Title	Fury black as night : 直喩形式の色彩語メタファー表現の予備的考察
Author(s)	竹森, ありさ
Citation	言語文化共同研究プロジェクト. 2026, 2025, p. 85-95
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/106338
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

Fury black as night: 直喩形式の色彩語メタファー表現の予備的考察

竹森ありさ

1. はじめに

本稿では色彩語を含む強意直喩表現(intensifying simile)を扱う。形容詞が示す性質の程度を高める比喩であり、“stock simile”(Norrick 1986)や *as-simile* (Moon 2008)などいくつか呼び方があるが、本研究では Svartengren (1918)の用いた intensifying simile の訳語「強意直喩表現」で呼ぶ。(1)に太字で示した(*as*) *adj. as noun* の型をもつ箇所が強意直喩表現である。

- (1) a. Your eyes are **as green as a meadow**. Your smile is **as bright as the sun**. Your skin is **as white as a snowflake**.

- b. His mood was **black as the night outside**...

(the Corpus of Contemporary American English (COCA))¹

*adj.*には色彩語のほかに多様な形容詞が使える。*good as gold/free as a bird/cool as a cucumber* などが例として挙げられる。本稿では *adj.*が色彩語であるものが対象である。色彩語を含む場合は(1a)にあるような見た目の説明をする場面で一般的に使用される。(1b)は叙述対象が“mood”であり、無形かつ本来色をもたないものである。*feel blue* や *white lie*、*black magic* など、物理的色彩をもたない感情、言葉、魔法などに色を用いるメタファー表現は、直喩表現以外にも様々に存在している。筆者はこれまで、竹森 (2022)、竹森 (2023)、竹森 (2024)などで色彩語を含む強意直喩について考察しており、その一連の研究として本稿ではメタファー表現について扱う。2章の先行研究紹介で述べるように、*adj. as* に続く名詞(句)は含意(connotation)を生む機能があると主張されている。直喩において明示されている情報は「XのようにY色」という色の情報であるが、含意があるとすると、色のほかに表していることがあると言える。本稿では実際には色彩がない無形物を叙述対象とする例を見、色彩語の比喩義を生かしながら、媒体によって生ずる含意にはどのようなものがあり、どのようにN1とN2と色彩語が関連するのかを考察する。

本稿では、“Your eyes are as green as a meadow.”の“Your eyes”にあたる色彩語の叙述対象である名詞(句)を *tenor*/主意、*adj. as* に続く名詞(句)“a meadow”を *vehicle*/媒体と呼ぶ。

以下、2節で先行研究を紹介し、3節で研究方法と分析した強意直喩表現の全体のデータを提示する。4節では用例を取り上げて観察し、5節で直喩型色彩語メタファーの特徴に関して考察を行い、6節で結論と今後の課題を述べる。

2. 先行研究

2.1 強意直喩の意味

強意直喩表現の中心的な意味は形容詞であり、*white as snow* と言え、意味するところは“very white”とされる。強意直喩は色彩語 *as* に続く名詞を *white as snow/a sheet/marble/ivory* など様々に入れ換えられる。形容詞が *white* ならば「真っ白」という意味をもつが、伝えられるニュアンスや使用傾向はそれぞれ異なる。例えば、*white as snow* は肯定的・否定的な意味両方に幅広く用いるが、*white as a sheet* は顔が青白くなった様に主に使用される(竹森 2022)。この入れ換えが可能な媒体であるが、この機能については含意(connotation)を生み出せるという議論がある(Norrick 1986: 42)。Moon (2008)はこの Norrick (1986)の主張に、媒体によって“humour, affective meaning, and other features of interpersonal meaning”などを伝達できると付け加えている(2008:9)。

Cruse (2011)では *like* を含む直喩の含意について、直喩には記述的(descriptive)な解釈と暗示的(connotative)な解釈の両方があり、どちらであるかは曖昧だと述べている(2011: 255)。

- (2) a. The juice of these apples is like wine.

- b. His house is like a palace.

(Cruse 2011: 255)

(2a, b)に記述的な解釈をするならば、「リンゴジュースがワインのような味や見た目をしている」「彼の家は大きく豪華で、たくさんの装飾がされている」という意味になる。しかし、暗示的な

¹ 引用中の強調は全て筆者による。

解釈をするならば、肯定的な評価で、ワインや宮殿から文化的に連想されることを喚起する。つまり、リンゴジュースにワインのような特別感、家が宮殿であるかのような特別感を直喩の使用者は感じていることになる。暗示的解釈は情動がこもった読み(more emotively charged reading)である(2011: 255)。

色彩直喩の場合、先述の(1a) “Your skin is as white as a snowflake.”という描写は、白だけを記述するのではなく、この女性の肌が *a snowflake* の媒体によって、雪片から連想される繊細さという特徴もつと示唆される。

本稿は Norrick (1986)、Cruse (2011)の直喩に含意が存在するという主張に基づいて考察を行う。次に、本研究に関連する媒体の議論

2.2 複合的色彩語の解釈の研究

Graumann (2007)は自動車に使用される複合的色彩語(complex color name)を扱い、その効果について考察を述べている。この論文では形容詞のみの色名(red, green, black)を基本色彩語(basic color term/name)と呼び、形容詞や名詞が付加された色名(*tornado red, cyber green, panther black, etc.*)を複合的色彩語と呼び分けている。複合的色彩語を見た際には、個人の考えや百科事典の知識を巻き込んだ複雑な心的イメージを生み出し、それが広告やマーケティングで利用されていると主張している。例えば *tornado red* という複合的色彩語を解釈する際には *tornado* に関する “powerful, dynamic or fast” という知識があり、これが心理的・生理的な感覚を呼び起こすとしている。red と、*tornado* についての百科事典の知識と自身の考え、心理的・生理的な感覚が一つになり、*tornado red* についてイメージが出来上がるという(2007: 136)。

色名を修飾する名詞や形容詞は本研究での媒体/N2 と立ち位置が近く、また、修飾語句と色彩語との間に一見関連が見出しにくい点も、無形の N1 を解釈しようとするのに類似している。dynamic なイメージ解釈の上で価値があるが、強意直喩表現は色名と異なり文学作品に頻出するため、分析においては直喩使用の文脈により注意する必要がある。

2.1 節で直喩の含意の存在、2.2 節では、色彩語との関連が解釈しづらいコロケーションについて触れた。次節では、研究方法を説明し、結果を概観する。

3. 研究方法とデータ

本節では、直喩形式の色彩語メタファー表現の分析手順とその結果を述べる。

用例は the Corpus of Contemporary American English (COCA)から採取した。扱う色彩語は、white/black/red/blue/green の 5 つを対象とし、それぞれコロケーション検索で “色彩語 as” の右 4 語に現れる名詞(レマ化)を検索して強意直喩表現を集めた。強意直喩の媒体として使用されている名詞(句)を例数の多いものから順に 20 リストアップした。検索結果に出たものには直喩表現でないものが混ざるため、それらは文脈を読んで除外している。

さらにこれらの強意直喩の叙述対象を確認し、物理的色彩のない N1 に使われている例を特定した。*red as hell* や *black as soul* など N2 が象徴的・無形な例があるが、本稿では N1 が無形であるものへの比喩表現を対象とするため、N2 のみが象徴的なものは考察対象から外した。N1 はさらに①人間の性質②人間の感情③人間の外界にある事物 の 3 つに分類した。そして N1 と色彩語の比喩義、N2 の特徴を関連させて分析を行った。特に、N1 と N2 の類似点、N2 の語の選択についての考察は Lakoff & Johnson (1980)の概念メタファー理論(Conceptual Metaphor Theory)に基づいて行った。

3.1 用例数について

コーパスから得られた強意直喩表現を概観する。*white/black/red/blue/green* を含む直喩表現の N2 のスロットに現れる名詞(句)²と用例数は表 1 の通りである。かつこの数字は用例数を示している。*white, black, red, blue, green* の順に用例が多い結果となった。全用例数のうちで *white* と *black* の例が 67%を占めている。最も少ない *green* は全体の 6%となった。

これらの例の叙述対象が何かを確かめ、実際には色をもたない N1 に使われている例を特定した。メタファーとして使用されている直喩が含まれているものは、表 1 のグレーで塗りつぶした箇所に示している。*white* では *snow/sheet/milk/paper/cream/light* の 6 つ、*black* では

² N2 の名詞(句)は表 2 では全て単数形表記にしている。

night/coal/pitch/ink/tar/sky/death/sin/hell の 9 つ、red では blood/fire/rose/devil/rooster の 5 つ、blue は sky と eye の 2 つのみ、green は grass/moss/corn/shamrock/gourd/lawn の 6 つが見られ、20 の名詞(句)のうちメタファー用法があるのは少数である。また、最も高頻度な N2 にメタファー用法があることが 5 つのそれぞれの色彩語に共通している。

表 1 white/black/red/blue/green as に続く名詞と用例数

white (399 例)	black (321 例)	red (171 例)	blue (124 例)	green (66 例)
snow(110)	night(89)	blood(51)	sky(45)	grass(17)
sheet(99)	coal(40)	hair(16)	sea(11)	sea(5)
ghost(53)	pitch(24)	fire(12)	eye(10)	glass(5)
bone(22)	ink(20)	beet(16)	robin's egg(8)	emerald(4)
chalk(18)	midnight(18)	lobster(7)	ice(8)	apple(4)
milk(15)	tar(13)	apple(7)	heaven(6)	leaf(4)
paper(14)	raven(11)	sun(6)	water(6)	moss(3)
moon(13)	hair(11)	cherry(6)	lake(4)	tree(3)
marble(10)	ebony(10)	rose(5)	ocean(3)	corn(3)
cotton(7)	sky(10)	devil(5)	fish(3)	shamrock(3)
cloud(7)	death(9)	beetroot(5)	forget-me-not(2)	gourd(2)
ice(6)	obsidian(9)	rooster(5)	sapphire(2)	lawn(2)
sugar(6)	sin(8)	tomato(5)	plum(2)	ocean(2)
alabaster(5)	soot(7)	ruby(5)	marble(2)	jade(2)
pearl(5)	hell(7)	strawberry(4)	lagoon(2)	meadow(2)
hair(5)	ace of spade(7)	sunset(4)	window cleaner(2)	spinach(2)
cream(4)	crow(7)	wine(4)	ink(2)	forest(2)
moonlight(4)	jet(6)	hell(3)	gas flame(2)	garden(2)
lily(4)	eye(5)	flame(3)	shadow(2)	wave(1)
light(2)	soul(5)	lip(3)	peacock's neck(1)	springtime(1)

表 1 でグレーで示した N2 を含む直喩には、色について描写する例と、色がないものの描写、つまりメタファーとしての使用例とが混ざっている。これらの直喩のメタファーの用例数と叙述対象は次の表 2 に示した。例数は非常に少なく、色のないものについて色彩語を含む強意直喩を使用するのは珍しいと分かる。また、全体の使用例が多い white/ black にメタファー例が 1、3 番目の多さで集中する一方、green は 16 例で 3 番目の多さとなった。green は 5 色のうちで直喩全体の例数が少ないが、メタファー例は red と blue よりも多い。メタファーとしての使用しやすさは直喩全体の色彩語使用頻度の高さと一部関連はしていないようである。

表 2 の N1 については、“soul”や “silence” など英語で表記したものは実際に COCA に使用されている言葉である。日本語表記のものは当該の直喩が修飾する代名詞などについて、その様子・文脈を表の見やすさを考慮して一言で要約したものである。N1 に数字を付していないものは 1 例のみ現れたことを示している。

表 2 強意直喩形式のメタファーの例と N1

Color	Simile	N1
white: 15	white as snow: 10	罪を洗い清めること(4)/ heart/潔白さ/witch/ sins/death/状況が正されること
	white as a sheet: 1	soul
	white as paper: 1	silence
	white as milk: 1	the life of the future spouses
	white as light: 1	状況が正されること
	white as cream: 1	soul

<i>black</i> : 20	black as night: 9	music(2)/humor/ heart/soul/death/fury/mood(2)
	black as coal: 3	secrets(2)/heart
	black as pitch: 2	humor/witch
	black as ink: 1	news
	black as tar: 1	soul
	black as the sky: 1	temper
	black as death: 1	bosom
	black as hell: 2	soul
<i>red</i> : 5	red as blood: 3	district/共和党/Communist
	red as a rooster's crown: 1	Communist
	red as rose: 1	love
<i>blue</i> : 4	blue as the sky: 2	sadness/悲しみ
	blue as eye: 1	確信していること
<i>green</i> : 16	green as grass: 9	未熟さ
	green as moss: 1	未熟さ
	green as gourd: 2	未熟さ
	green as corn: 2	未熟さ
	green as lawn: 1	未熟さ
	green as shamrock: 1	blood

繰り返し出現した語は “soul” で、5 回であった。“heart” は 3 回、“death”、“witch” は 2 回ずつ出現した。明度として対極である *white* と *black* の双方に “soul”、“heart”、“death”、“witch” があり、他の色彩語にないのは特徴的である。“soul”、“heart” のように人間などの性質に関連するのは、「未熟さ」や “blood”、罪に関する N1 が見られる。“blood” は本来 *red* の色をもっているのだが、この “blood” は「生まれ」を意味している。“heart” は人間の性質のほか感情にもカテゴライズできるが、感情についての N1 は、“fury”、“mood”、“temper”、“bosom”、“love”、“sadness” などである。感情に関わる主意は、*green* の例にはなかった。

性質や感情などは人間が外界の事物を知覚して形成されたり起こったりするものである。それらの原因となる外界にある事物を表す N1 には、“silence”、“music” という聴覚で知覚できるものが現れた。これらに色彩語を用いる点は共感覚的(synesthetic)である。他に、“news”、“secrets”、“humor”、“district”、“the life of the future spouses”、「状況が正されること」が挙げられる。

red as blood の「共和党」と *red as a rooster's crown* の “Communist” は、色彩語 *red* とつなげて言えばメタファーではなくメトニミーとして使用されている。

ここまで、N1 の数について概観し、N1 を分類した。強意直喩は N2 のもたらす効果が特徴的な表現であるため、分類に基づいて N1 と N2 がどう結びつくか観察する。

4. 用例の観察

この節では表 2 に挙げた強意直喩表現のうち、12 表現を取り上げる。4.1 節で人の性質に関する N1、4.2 節で感情に関する N1、4.3 節で人間の外界の N1 を扱う。

4.1 人の性質に関する N1

「罪を洗い清めること」という N1 は *white as snow* に 4 例見られる。

- (3) a. With you I'm washed **as white as the snow**.
b. Are they **white as the snow**? Are you washed in the blood of the lamb?
c. That(=the blood of Jesus) make us **white as snow**
d. Pray and I'll wash thee **as white as snow**.

(COCA)³

これは旧約聖書 Isaiah 1:18 にあるフレーズが元になっている引喩(allusion)である。sins は scarlet/crimson の色であるがそれを white にするという宗教的な表現である。

- (4) Come now, and let us reason together, saith the Lord: though your sins be as scarlet, they shall be as white as snow; though they be red like crimson, they shall be as wool.

(Isiah 1:18 Biblegateway.com)⁴

green のメタファー例は経験の足りなさを表すものが 16 例中 15 例であった。*green* の色彩語には「未熟」の比喩義がある。

- (5) adj. green II.8.c. Of a person, or his or her powers or capacities: immature, raw, untrained, inexperienced. Also of an animal, esp. a racehorse or dog: untrained; frequently in to run green: to run in an undisciplined manner.

(OED)

強意直喩全体では *green as emerald* や *green as jade*、*green as ocean* など宝石や海の N2 もあるが、未熟さを示す場合は全て N2 が植物名詞であり、<PEOPLE ARE PLANTS>の概念メタファーに基づくと言える。*grass* の媒体が最も多く 9 例あるが、*green/grass* で頭韻(alliteration)を踏むこと、*green* の色をもつ物のプロトタイプとして *grass* が想定される⁵ことなどが原因と考えられる。

(6c)は *creek moss*、(d)は *Houston lawns in spring* が媒体として選択されている。

- (6) a. He was **as green as grass**. He never did nothin'. A convenience-store robbery and that's it.
b. ...that way of life had shielded her from much of society's ugliness, which left her inexperienced when it came to many of the world's workings. Tim had no doubt taken one glance into her eyes and known that she was **as green as grass**...
c. He's a buck private **green as creek moss** who just followed orders, factory-like...
d. ...a teacher **as green as Houston lawns in spring**, had 10 rules she was trying to impress on her student...

(6c)の “he は命令に従うだけで自分からは動かない人間であると描かれる。moss は木や石、地面の表面などに生えるが、繁殖力が強く単調に広がっていく様が“he”の機械的な仕事ぶりに類似しているためにこの媒体が選ばれたと考えられる。

(6d)については、春に生育し始めた *lawns* がこの “teacher”が教師になりたてであることを形容詞 *green* の意味とともに補強している。<A LIFETIME IS A YEAR>のメタファーでは “springtime is youth, summer is maturity, autumn is old age, and winter is death.” (Lakoff & Turner 1989:18) と季節と人生の対応があるが、(6d)では植物が季節によって成長していく点が踏まえられた比喩となっている。

green as shamrock も ‘green as + 植物名詞’ の直喩であるが、未熟さを示すのではなく、(7)ではアイルランド人のアイデンティティを指している。*shamrock* はアイルランドの国花である。

³ これ以降、引用元を記載しない強意直喩表現を含む例文は全て COCA からである。

⁴ KJV を引用。

⁵ 色を定義する方法として、その色が際立った特徴であるものに言及するやり方が従来から存在する(Wyler 1992: 117)。green の定義は、OED では “of the colour of grass, foliage, an emerald, etc.”、*Oxford Dictionary of English* では “coloured like grass or emeralds”、*LONGMAN Dictionary of Contemporary English* では “having the colour of grass or leaves”とある。

- (7) ...if the blood in your veins is **as green as a shamrock** and your heart's full of blarney, then the Saint of the Step loves you!

アイルランドの守護聖人の日 St. Patrick's Day の 3 月 17 日は緑を身につけて祝われることで知られている。*green, shamrock* という語によってアイルランドの国を指すためこの例はメトニミーである。色によって人の属性を表すのは 3 節で述べた *red as blood* の「共和党」と *red as a rooster's crown* の “Communist” と同様である。*blood* と *a rooster's crown* が the Republican Party と Communist のメトニミーとして関連するのか不明であるが、(7)では形容詞・N2 とともにアイルランドのメトニミーとして用いられている。こういった語のメトニミーの発展の仕方を踏まえなければ、メタファーとみなしてしまうことがあると Niemeier (2007)は指摘している(“we can only understand these metonymies as metonymies if we know how they developed (i.e., if we are aware of the different metonymic steps).” (2007: 146)。

次節では感情が N1 となる例を観察する。

4.2 感情に関する N1

色彩直喩のメタファー例は *white/black/green* に集中しているが、感情の N1 が最も多いのは *black* である。そもそも *black* の語は以下の比喩義をもつ。

- (8) a. II.14.a. Of an emotion, state of mind, etc.: full of gloom, melancholy, misery, or sadness; very depressed.
b. II.14.b. Of a situation or prospect: foreboding, threatening; (of an expression or look) full of anger or hatred.

(OED)

(8b)の意味では次の例の(9a, b)で、(8a)の意味では(c)で使用されている。(9a)では怒りについて “the unexplored vastness”と述べているが、*night* もまた *vastness* という特徴があるだろう。日没後にあたりを暗くしてしまうのは、*raven* や *obsidian* など一定のまとまりのある黒さを視界に入れて認識するのは異なるもので、明かりがないならばどこに何が存在しているのかわからない空間が広がっていることになる。怒りの非常な大きさが伝えられる。(9b, c)では直喩が出てきた作中で実際に夜の場面である。(9b)では荒天の領域に含まれる “lightning”、“thunder”、“storm”を N1 “mood”の激しさの描写に用いている。(9c)では<UNHAPPINESS IS DARK>の概念メタファーが関わっている。夕闇が迫るにつれて自己嫌悪感を喚起させているようでもあり、メトニミーに基づくメタファーと言える(Deignan 2005, 渡辺ほか訳 2010: 220)。

- (9) a. Deep within the unexplored vastness of Fury. It's **black as night**.
b. His mood was **black as the night** outside, it sat on his shoulder, full of thunder, tight with lightning, thick with the storm of pent-up irritation that must erupt before the evening's end.
c. As the city grew dark, he would slowly fill with self-loathing, his mood growing **black as the night** itself.

これらの *black as night* と似ているのが次の例である。N2 は *the sky* であり、時間帯や天候によって色が変化するものが選ばれている。ここでは前文脈によると “the darkest hour before dawn”の場面で、空の暗さが “she”の怒りの強さに写像されている。

- (10) She was silent, her mouth tight, controlling a flash of temper **as black as the sky**.

空と心模様のメタファーは *blue as the sky* にも見られる。

- (11) Jimmy was beside me. My heart expanded, as fierce and **blue as sky**.⁶ I loved him.

⁶ 原文で “blue as sky”で出現しており、the はついていない。

青空のように心が広がると述べることで、愛する感情がいかにかいかに大きいかを表している。同時に、青空は天気のいい時の空であるため、心の明るさをも意味していると考えられる。“fierce”については、“I”は母親の状態に悩まされているが Jimmy がいることでそれが問題ではなくなったと前文脈で述べており、Jimmy が急に状況を明るくしてくれた存在であることが示唆されている。荒天の様を喩辞に含める(9b)とは対照的である。両者には<FEELING IS WEATHER>の概念メタファーが根底にあると言える。

晴れた空と肯定的な気持ちが対応関係にある一方で、晴天が憂鬱に使用される例が存在する。(12)では N2 が *the sky* ではなく *the sky blue* で色名ではあるが、「空色のように悲しい」という直喩である。

(12) Now he's gone, and we're through, am I blue! **As blue as the sky blue**

この例では“he”がいなくなってしまったという点が重要である。*into the blue* というフレーズが OED の blue の項目に記載があるが、blue が sky か sea をメトニミー的に指し、それらが非常に遠いところ・知らないところを意味する。(12)は物理的距離とともに心理的距離ができたことを示している直喩表現である。

(13) blue Phrases P.3.a. **into the blue:** (a) Into the sky or sea; (hence) into the far distance or (figurative) into the unknown;

(OED)

(14)の愛のメタファーは先述の例より馴染みがあると思われる。“love”について *red as the roses* と表現しており、red も rose も愛の象徴である(de Vries1974, 山下ほか訳 1984)。“Love planted deeply”と直喩の後にある通り、<LOVE IS A PLANT>の概念メタファーに基づいていると言えるだろう。

(14) I love you more It may not be **red as the roses** yet It may not be strong as the old oak trees but Love planted deeply becomes what it ought to be

この例の red は赤さそのものの度合いが明るくなったり色調が変化したりすることではなく、バラが咲いていくにつれて赤い花卉の見える範囲の面積が増えることに言及していると考えられる。蕾では赤く見える箇所は小さく、花が開けばより赤色は目立つ。rose の成長や開花と愛の成熟が対応している比喩表現である⁷。これは *green as Houston lawns* の例で述べた、植物が季節を追って成長していく点と <A LIFETIME IS A YEAR>のメタファーにおける季節と人生の対応と関連する。ここではすなわち、love の maturity を“I”が望んでいると言える。恋愛の盛りを迎えて愛が成熟することが、夏が来てバラが開花することに喩えられている。

次の 4.3 節では外界を対象とする直喩表現を扱っていく。

4.3 人間の外界の N1

この節では“silence”と “the life of the future spouses”の N1 を取り上げたい。*white as a sheet* と *white as paper* は(15)に示すように人の肌の白い様、前者は専ら死やショックで青白い様が主意となる。そのため、形をもたないものが叙述される例は珍しい。

(15) a. He says Teddy was **white as a sheet** and his hands were shaking.

b. She could barely whisper, and her skin was **as white as paper**.

聴覚的なものについて色彩語を用いる例として、N1 “silence”に *white as a sheet of paper* を使っているものがある。

(16) At last his father fell silent, and then the wind died down, leaving only the sound of the water knocking softly against the boat, and finally there was perfect silence, a silence **white as a sheet of**

⁷ 大森文子教授のご教示による。

paper, and upon this sheet of paper he could still read the sentence his father had spoken into the silence of the dream...

会話中は会話の参加者のいる空間に言語音が響いている状態であり、話者が黙れば言語音は聞こえてこない。この例では会話が作文に喩えられていると考えられる。沈黙を白紙に喩えており、さらに沈黙の中で言いたいことが分かる様が白紙にした意図が分かることに対応している。(15)では、*sheet* や *paper* の奥行き感のない薄さが顔面蒼白の描写に生かされているが、(16)では紙が文を書き留めるための道具である側面に焦点を当てて成り立っている比喩である。

(17)では生活に対して *white as milk* と表現されている。直前に *as delicious as honey* とあり、*milk* と *honey* はキリスト教では重要な表現である。*Exodus*3:8 において、“a land flowing with milk and honey”で使われ、豊かな土地であることを示す。

(17) On another cart, pulled by a man, there was a sack of flour, a sack of sugar cones, a five-liter jug of oil, and a bucket of honey and a bucket of milk, so that the life of the future spouses would be as delicious as honey and **as white as milk**.

(18) And I am come down to deliver them out of the hand of the Egyptians, and to bring them up out of that land unto a good land and a large, unto a land flowing with milk and honey; unto the place of the Canaanites, and the Hittites, and the Amorites, and the Perizzites, and the Hivites, and the Jebusites.

(Exodus 3: 8 Biblegateway.com)

旧約聖書を踏まえて「豊かさ」という側面は *milk* にあると考えられる。同時に、*white* には時を修飾する用法がある。

(19) adj. white II. 10. Chiefly of a time or season: propitious, favourable; auspicious, fortunate, happy. Now rare and archaic.

(OED)

現在では珍しく、古風な使い方であるため、“the life of the future spouses”の N1 にこの意味が現代の英語使用者にとってどれほど生かされるのかは疑問が残るため、*milk* の影響の方が強く出ると考えられる。

ここまで、物理的色彩をもたない主意を分類し、それを対象とする強意直喩について N1 と色彩語、N2 とを関連させて、媒体の言葉の選ばれ方やメタファーについて分析をした。聖書引用やメトニミーの例を除くと、それぞれの直喩表現が N1 との類似点を元に行っている。感情や未熟さを表すための *black as night* や *green as grass*/植物名詞の複数ずつある例も、*night* の暗さや空間、植物の特徴などによって個々に異なることが分かった。

5 節では、色彩直喩型メタファーの特徴について議論を行う。

5 考察

扱った強意直喩について、次のような特徴に分類できる。すなわち、①元々ある *set phrase* が生かされている、②色彩語のイメージと比喩義が生かされている、③N2 の特徴が生かされている、④メタファーの類似関係が生かされて新奇さを生む。これらは相互に排他的ではなく特徴同士が重複するが、いずれかの特徴の影響が強く出ていると考えられる。

上記に挙げた強意直喩を分類し、該当する特徴を表 3 に示す。まず *Isiah* 1:18 からの引用である (3) *white as snow* は①に分類される。また、*white* に *purity* の象徴があるため②にも当てはまる。③④に関しては、*white as snow* が使用頻度が高いこと、*set phrase* である点を考慮すると、使用者がこの媒体をどれほど意識しているのかは定かではない。同じく聖書の影響が見られる(17)は、①と③が当てはまるが、②の *white* の比喩義については疑問が残るため、表 3 では薄いグレーで示した。怒りや気持ちの暗さに(9)の *black as night* を使い、未熟さに(6)の *green as grass* を用いるのは②と③となる。‘色彩語 as’に続けられる名詞、つまり媒体を様々に入れ換え可能な点を考慮すると、③の影響を受けないものはごく少数であろうが、使用頻度が高いものは *cliché* となって新しさや意外さが感じられないものもある。(14) *red as the roses* も色彩語と媒体双方が *love* の象徴であることに馴染みがあれば、②③に分類できる。“heart”が *blue as sky* のように広がるという(11)

の直喩には、blue にもたれる “sad”や「高貴」というイメージは含まれておらず、この色彩語自体が sky をメトニミー的に表しているため②に分類できる。そして sky という N2 が重要であると同時に、明るい気持ちであるが形容詞 blue を用いており意外さがある。対して(12)では、悲しみを blue で表しているの②に分類できるものの、この感情を sky blue と表現しており、爽やかさをもっている。“silence”に white as a sheet of paper を用いた(16)では、(20)に示すように、white には「余白・空白」の意味があるため、②の要素に当てはまる。先述したように white as a sheet と white as paper は人の肌の白い様に使うため、“silence”に使用しているのは新しい表現である。

表 3 直喩形式の色彩語メタファー特徴分類

N1/simile	①	②	③	④
罪を清める/white as snow				
the life of the future spouses/white as milk				
怒り・憂鬱/black as night				
未熟さ/green as grass				
love/red as the roses				
heart/ blue as sky				
悲しみ/ blue as the sky blue				
silence/white as a sheet of paper				

(20) 17.a. *Typography*. The blank space in certain letters or types; a space left blank between words or lines.
(OED)

実際に色を認識できる N1 では、(as) adj. as NOUN の adj.、つまり色彩語の部分がメトニミーとして機能することがしばしばある。(15)の例では、[顔色が青白い→体調不良]という結果で原因を表すもの、(1a)の例では[色白→(特に)女性の美しさ]という文化的側面に根ざしたものなどを表せる。

- (15) a. He says Teddy was **white as a sheet** and his hands were shaking.
b. She could barely whisper, and her skin was **as white as paper**.
(1) a. Your skin is **as white as a snowflake**.

そして N2 はそのメトニミーを補強する機能を持ち、象徴的意味や視覚以外に知覚できる情報を伝達できる。vehicle によって補強できる点は物理的色彩をもたない N1 の場合も見られ、怒り・憂鬱、未熟さ、沈黙などの様子がより詳細に伝達される。しかもこれは色をもつ N1 の場合より詳細さが増していると考えられる。文学作品などで人物の見た目の描写、つまり記述的解釈によって、その人物の人格や心情を説明できるが、これは間接的な方法であり、見た目の描写から得られる解釈、つまり暗示的解釈は読者に委ねられている。反対に、無形の N1 は感情や状況に直接言及するため、本来色彩をもたないものに色彩を使用しているにも関わらず、N1 と N2 の対応によって情報がより明確に伝わる。ではなぜ無形の N1 に色彩語を含む強意直喩を使用する例が少ないのかは、N2 とのコロケーションにもよるだろうが、色のある事物に色彩語を用いる方が、読者はすぐに意味を理解できるためだろう。色のないものに色彩語を使用すると解釈をするのに時間がかかるため、直喩使用者は情報の濃さよりも読み進めていける点を優先していると言える。

6. 結論と課題

本稿では、色彩語を含む直喩表現が叙述対象として色をもたない tenor が現れる例を扱った。形容詞で明示されている色彩語の情報のほかに、暗示されている情報があるという指摘、意味を掴みにくいコロケーションの色名を解釈する際の認知作用について、先行研究で確認をした。white/black/red/blue/green を含む直喩表現の N2 をリストアップし、この中での無形の N1 は例が少なく、ものの見た目について描写する方が一般的であると指摘した。用例の観察においては、直喩の使用されている状況など踏まえながら、N2 の語の選択理由や、tenor/vehicle の概念メタファーに基づく対応関係、使用されている色彩語の比喩義について考察をした。N2 が色彩語の意味を

補強して、個々の N1 の様子や状況、心理についてより詳細に伝えたり、ものの見た目を説明する場合と異なる意外性のある表現を生み出したりするなどの効果があった。①元々ある *set phrase* が生かされている、②色彩語のイメージと比喻義が生かされている、③N2 の特徴が生かされている、④メタファーの類似関係が生かされて新奇さを生む、という 4 つの特徴を指摘した。また、ものの見た目に直喩を使う際はメトニミーで間接的、反対に無形の N1 は直接的で情報が多いが読者が理解するのに時間を要することを主張した。

今後の課題としては、まず用例の集め方が改善できる。N2 を上位の 20 語としたが、メタファー例は少数であるため、20 に限定しない方がより多くの例を収集できる。また、今回表 2 に出したもののうちで一部のみの分析にとどまったので、さらに観察することが必要である。また、色がある N1 が形容詞で表されている色を実際にしているのかそうでないのか判断がつかない例が存在し、精緻に読むことが求められる。加えて、5 節で述べた 4 つの特徴は定義・基準が不十分であり、特に②色彩語のイメージと比喻義が生かされている、③N2 の特徴が生かされている に当てはまらない例は稀であると考えられるため、改善すべき点である。

参考文献

- Berlin, B. & P. Kay. (1969). *Basic Color Terms, their universality and evolution*. Berkley: University of California Press.
- Cruse, A. (2004/2011). *Meaning in Language: An Introduction to Semantics and Pragmatics*. 3rd edition. Oxford: Oxford University Press UK.
- Deignan, A. (2005). *Metaphor and Corpus Linguistics*. Amsterdam: John Benjamin Publishing Co. (渡辺秀樹・大森文子・加野まきみ・小塚良孝訳(2010). 『コーパスを活用した認知言語学』. 東京: 大修館書店.)
- de Vries, A. (1974). *Dictionary of Symbols and Imagery*. Amsterdam and London: North-Holland Publishing Company. (山下主一郎ほか訳(1984). 『イメージ・シンボル事典』. 東京: 大修館書店)
- Emmer, J. (2020). “Boring as hell: a corpus study of intensifying post-modification of predicative adjectives in the ‘ADJ as NOUN’ frame”. *Linguistica Pragmatis*, 30(2), 127-137.
- Graumann, A. (2007). ‘Color names and dynamic imagery’, M. Plümacher & P. Holz (eds.), *Speaking of colors and odors*, Amsterdam: John Benjamins, 129-140.
- Lakoff, G. & M. Johnson. (1980). *Metaphors We Live By*. Chicago: The University of Chicago Press.
- Lakoff, G. (1987). *Women, Fire, and Dangerous Things: What Categories Reveal about the Mind*. Chicago: The University of Chicago Press.
- Lakoff, G. & M. Turner. (1989). *More than Cool Reason: A Field Guide to Poetic Metaphor*. Chicago: The University of Chicago Press.
- Moon, R. (2008). “Conventionalized *as*-similes in English: A problem case”. *International Journal of Corpus Linguistics*. 13 (1), 3-37.
- Niemeier, S. (2007). ‘From blue stockings to blue movies: Color metonymies in English’, M. Plümacher & P. Holz (eds.), *Speaking of colors and odors*, Amsterdam: John Benjamins, 141-154.
- Norrick, N. (1986). “Stock similes”. *Journal of Literary Semantics*, XV (1), 39-52.
- Novoselec, Z. & J. Parizoska. (2012). ‘A corpus-based study of similes and cognate adjectival forms in English, Swedish and Croatian’, in A. P. Bertrán, J. M. P. Breña, & L. L. Nadal (ed.), *Phraseology and Discourse: Cross Linguistics and Corpus-based Approaches*, Baltmannsweiler: Schneider Verlag Hohengehren, 101-110.
- Parizoska, J. & Z. Novoselec. (2014). ‘Idiom variation and grammaticalization: a case study’, in A. Peti-Stantic & M. M. Stanojevic (ed.), *Language as Information*, Berlin : Peter Lang Verlag, 179-192.
- Richards, I. A. (1936). *The Philosophy of Rhetoric*. Oxford: Oxford University Press.
- Svartengren, T. H. (1918). *Intensifying Similes in English*. Lund: Gleerupska.
- Trim, R. (2011). *Metaphor and the historical evolution of conceptual mapping*. London: Palgrave Macmillan.
- Wyler, S. (1992). *Colour and Language: Colour Terms in English*. Tübingen: Gunter Narr Verlag Tübingen.
- 菊地礼(2022). 「直喩による程度表現の働き」. 『表現研究』. 第 115 号, 14-23.
- 久野愛. (2021). 『視覚化する味覚—色を彩る資本主義』. 東京: 岩波書店.
- 瀬戸賢一. (1997). 『認識のレトリック』. 東京: 海鳴社.
- 竹森ありさ. (2022). 「色彩語 *white* を含む強意直喩表現の分析—*white as snow/a sheet/marble* の比較—」『英語のレトリック・日本語のレトリック(言語文化共同プロジェクト 2021)』. 大阪大学大学院言語文化研究科, 43-53.
- 竹森ありさ. (2023). 「色彩語 *red* を含む強意直喩表現の分析 —*red as blood / fire / rose* の比較—」『レトリックと文法 (言語文化共同プロジェクト 2022)』. 大阪大学大学院人文学研究科言語文化学専攻, 79-89.

- 竹森ありさ. (2024). 「色彩語を含む強意直喩表現の形式比較—*as-simile* と複合語—」『こちら側とあちら側のレトリック —メタファー・翻訳・認知—(言語文化共同プロジェクト 2023)』. 大阪大学大学院人文学研究科言語文化学専攻, 75-84.
- 福田邦夫. (1994). 『ヨーロッパの伝統色—色の小辞典』. 東京：読売新聞社.
- . (1999). 『色の名前はどこからきたか—その意味と文化』 東京：青娥書房.
- . (2017). 『色の名前事典 507 』. 東京：主婦の友社.
- . (2023). 『色の名前事典 519 』. 東京：主婦の友社.
- 半沢幹一(編).(2023). 『直喩とは何か—理論検証と実例分析』. 東京：ひつじ書房.
- 吉村耕治. (1997). 「中期英語の色彩表現の曖昧性」. 『英語青年』. 142 (10), 550-554.
- 渡辺秀樹. (2005). 「強意的頭韻直喩 "as dead as a/the dodo" の発達と異種」. 『言語文化研究』, 第 31 号, 163-186.

辞書・コーパス

The Oxford English Dictionary. Oxford University Press, March 2026. (<https://www.oed.com>)

Oxford Dictionary of English Second Edition Revised. Oxford University Press 2005.

LONGMAN Dictionary of Contemporary English 6TH EDITION. Pearson Education Limited.

Oxford IDIOMS Dictionary for learners of English. Oxford University Press 2001 and 2006.

Davies, Mark. (2008-) *The Corpus of Contemporary American English (COCA)*. Available online at <https://www.english-corpora.org/coca/>.

Biblegateway.com

サイト最終閲覧日 2026 年 5 月 17 日